

## 【別 添】

令和 3 (2021) 年 1 月 22 日

柏崎市総合計画審議会・同分科会合同会議

### 市長講話 趣旨

総合計画審議会委員及び分科会委員の皆様におかれましては、感謝申し上げます。

本基調講演で、市からのお願いや考え方を皆様にお伝えしたいと考えています。

昨日から本日にかけて、アメリカ合衆国の大統領就任式がありました。アメリカ合衆国の大統領就任式は、常に1月20日であります。実は、何年もこの話をしておりますが、柏崎市は3年ほど前から元号と西暦を併記させていただいています。それは、人口8万2千人の自治体である柏崎市が、どうしても世界とつながらざるを得ない状況であるからです。世界の中でという感覚が必要となってくるのです。

例えば、昨年から今年に延期された東京オリンピックは「2020」で、元号は使用していません。元号を使用したとしても、世界の各国がこの意味をなさないからであります。私は、元号・伝統・歴史を非常に大切にしたい人間であります。しかし、同時に西暦を使わない手はないということで、全国で1754の地方自治体がありますが、唯一、柏崎市は元号と西暦を併記させていただいています。国の役所の中では、免許証を発行する警察庁で使用しており、最近、免許証を取得された方は、免許証に元号と西暦が併記してあるはずであります。これは、国際免許証等を取得する方が多くなったからということなのです。

申し上げましたとおり、アメリカ合衆国大統領の就任式が、なぜ日本に、そして柏崎に関係するのか、具体的なこととお話いたします。

トランプ大統領は4年前に当選しました。私を含めて、日本中、世界中ほとんどの方々にはヒラリー・クリントン氏が当選すると思っていました。まさか、トランプ氏が当選するとは思っていませんでした。ところが、アメリカファーストと称してトランプ大統領が当選され、壁をつくる演説を行い、そして圧倒的な人気で4年間突っ走ってこられ、日本を含め、世界中が翻弄されました。もし、新型コロナウイルス感染症の問題がなかったならば、トランプ氏は再選していたと思います。ところが、思わぬところから新型コロナウイルス感染症が出てきて、トランプ氏はバイデン大統領に負けてしまいました。

そして、一昨日になりますが、就任演説でのバイデン大統領のキーワードは、「ユニティー」でありました。「ユニティー」というのは団結という意味であります。女性の方々の出で立ち、紫系統のコートが多かったのですが、これはなぜか。共和党の赤、民主党の青、混ぜると紫という分析がされています。裏を返せば、いかにこの4年間で分断された4年間だったかということを示す事象だったと思います。そういったことに私たちは気づかなければなりません。

今までトランプ氏は、パリ協定等をはじめ、WHO、環境問題、そして地球温暖化などというものには、否定的な立場でありました。しかし、バイデン大統領となり、環境問題重視へのシフトが明確になりました。車大国であるアメリカ、ヨーロッパ及び中国はEVへのシフトが非常に強いものになってきました。そして、EVの影響は柏崎の産業に及んでいます。EVになってしまえば、エンジンはいらぬ。エンジンがいなければ、ピストンリングは不要であるという形態になってしまうのです。想像している以上に、この世の中の動きがかなりのスピードで進んでいます。少なくともヨーロッパ、アメリカはかなりのスピードで進んでいます。そこに日本がついていかなければならない。日本がその流れについていくときに、柏崎はどういうふうに産業を組み立てていくのかということです。

先ほど(会議冒頭の挨拶で)も申し上げた、スピード感というものが大事であります。もちろんゆっくりと物事を考えることも大切なことであります。しかし、それが許されるような時代ではなくなってきました。

今から28年前、1993年の1月20日に私はワシントンにいましたが、ビル・クリントン大統領の最初の大統領就任式に、ちょっとした関係があつて招待状をいただき、何十万人の末端の一番後ろで就任の挨拶を聞いてびっくりしました。「It will require sacrifice」アメリカを再生するためには、という意味であります。すでにその時からビル・クリントンはこの言葉を使っていました。そこで使われた言葉は、「sacrifice」であり、直訳すれば「犠牲」であります。大統領が国民に対して、そして就任式の演説において「sacrifice=犠牲」を求めたわけです。御承知のように、ビル・クリントン大統領はJFK(ケネディ大統領)を模範として、大統領になったわけであります。ケネディ大統領が発した有名な言葉「Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country.」「国があなたたちに何かしてくれることを問うのではなく、あなたたち自身が国に何ができるのかを説いたまえ。」という意味ですが、それを意識したビル・クリントンの言葉だろうと思っています。「国に何かしてくれることを問うのではなく、国のためにどのような犠牲を払うことができるのか。」と大統領就任式で国民に問いかけました。翌日のワシントンポストやニューヨークタイムズは、そのことを書き立てました。すごい国だと思いました。しかし、今まで4年間見てきたように、トランプ氏のような人物を大統領にあげることができる恐ろしい国だとも思いました。

一方、中国がここ10年の中で圧倒的な力を持って台頭してきています。かつてのアメリカ、ロシアという冷戦構図ではなくなり、3極構図になってきているのです。

また、イギリスがEUから離脱しました。離脱なんかしないだろうと思っていたが離脱しました。

これが私たちの日本の周辺で起こっている出来事であります。そして、車のことを申し上げるならば、まさに柏崎で起こっている出来事であります。

今回の大雪の際に防災無線を流しましたが、最初は「大雪です。御迷惑をかけています。申し訳ありません。」と放送しました。そして、2回目の放送時には「事業者の皆さんも体力の限界です。」「生活路線、除雪が間に合いません。」と正直に申し上げまし

た。これは行政としては、ある意味恥ずかしいことでもあります。できないということも申し上げているわけでもありますから。しかし、この前、鶴川と野田のコミュニティの統合の調印式の際、立会人としてお越しいただいた、柏崎市内で一番大きな町内会である松波町内会長からお褒めの言葉をいただきました。「市長、この前の防災無線は良かった。その防災無線が鳴るまでは、町内会の事務所、コミュニティの事務所に苦情の電話が鳴りやまなかった。市役所にかけても電話が繋がらないからコミュニティにたくさん電話がかかってきた。しかし、防災無線が放送されてからは1本も苦情の電話がかかって来なくなった。」と言われました。つまり、市民の皆さんに「すみません、できません。業者の方々も体力の限界です。」というふうにお伝えしたことについて、御評価いただいたのだと思っております。

現在、鶴川地区は数軒であります、かつては270世帯を超える世帯数を誇るコミュニティでありました。鶴川のコミュニティの関会長は、コミュニティがなくなってしまう思いを切々と語られる。また、野田の力石会長は、鶴川の方々の思いを共有するというような話をされました。時代が早く動く中で、人の気持ち、思いというのが、アナログの力が生きているなど実感した素晴らしいひと時でありました。

もちろん、コミュニティの統合を進めているのは私で、計画ができたのは前市長の時です。実際に引き継いで進めているのは私であり、基本的に私の責任であるのです。しかし、そういった中で、鶴川の方々の思い、受け入れる野田の人々の思いを知ったときにありがたいなと思いました。

皆様方におかれましては、是非、柏崎が担ってきた伝統・歴史、地域性といったものを大事にさせていただきながら、しかし、そこにとどまることのない新しいものを見出していただきたいと思っております。そのために、なるべく若い方々に御参集いただいたわけであります。

先日、柏崎青年会議所(JC)の方々が、新年のあいさつにお越しになられました。私もJCの一員だったため、こう申し上げました。「JCの皆さんは、今SNS等使っている意見が言える世代である。しかし、皆さんは批判する立場ではなく、批判を受け側の立場になってもらいたい。責任を担う立場であっていただきたい。」と。

新しい時代をつくるためには、ビル・クリントンがアメリカ国民に求めたように、不合理的な「sacrifice=犠牲」といったものは、まさにいけにえでしかないので、いけにえでなく「sacrifice」個人、公、社会、会社、それぞれが抱く責任といったものを自覚した上で役割分担をしながら、少しでも柏崎が安心できる、安全で豊かなまちになるように計画策定にお力添えをお願い申し上げます。柏崎の市勢要覧の中で「保守、進取」と書かせていただきました。この「保守」は、政治のことを申し上げているわけではありません。伝統や歴史を「保ち守る」という意味であります。しかし、そこにとどまらず、新しいものを「進んで取って」いく。それこそが、今までの柏崎の歴史であり、これから柏崎が進む歴史であると確信しています。皆様は、その新しい歴史をつくるストーリーテラーであり、脚本家であります。何とぞよろしく願いいたします。